

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年5月11日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子 清水葉子（RKK 熊本放送ディレクター、古代踊りと神楽を取材）		
検証テーマ：米中貿易交渉、オープニング、大阪都構想、北朝鮮、菅官房長官の訪米、アメリカとイラン 【特集】北朝鮮～相次ぐ発射の裏で		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> ・米中貿易交渉 ・オープニング ・福島県鏡石町の小学校の運動会で突風によりテントが飛ばされ 12 人がけが ・滋賀県大津市で交通事故 ・北海道江別市で交通事故 ・大阪都構想 ・北朝鮮 ・菅官房長官の訪米 ・アメリカとイラン ・バス転落事故で男の会社を家宅捜索 ・千葉県の雑木林に死体遺棄の疑いで手配の女を逮捕 ・東急世田谷線が運行 50 週年で招き猫電車をお披露目イベント ・【特集】北朝鮮～相次ぐ発射の裏で ・【特集】古代踊りと神楽～伝統文化を守る ・スポーツ報道 		
放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> ・米中貿易交渉：結論→特に問題なし アメリカのワシントンで 9 日から二日間に渡って米中貿易交渉が行われたことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 150 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。 ・オープニング：結論→特に問題なし 番組の冒頭でスタジオの金平キャスターが「大統領がツイッターでなにか呟くと株価が乱高下したり閣僚が首になったり外国との緊張関係が生じるなど、世界が大きく変わってしまう、こんなことは本来、民主主義の国ではあってはならないはずですが、なぜ今のアメリカでは許されるのでしょうか、日本でもそうならないことを祈るばかりです。」とコメントしていた。このコメントに当てられた時間は 22 秒だった。 ・大阪都構想：結論→特に問題なし 大阪市を廃止して特別区を新設する大阪都構想について、公明党大阪本部と自民党大阪府連は是非を問う住民投票の実施を容認する方針を明らかにしたとのことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 81 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。 		

・北朝鮮：結論→特に問題なし

北朝鮮の短距離弾道ミサイルの発射を巡ってアメリカのトランプ大統領が 10 日「金正恩委員長が信頼を裏切ったとは思わない」と述べて、問題視しない考えを示したとことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 84 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・菅官房長官の訪米：結論→特に問題なし

アメリカを訪問中の菅官房長官は国連本部での拉致問題に関する講演など一連の日程を終えたことが伝えられるとともに、同行した川瀬記者の「今回の外遊の目的は拉致問題担当大臣として、拉致問題を国際社会に訴えることでしたが、大きく注目を集めることになったのは、アメリカ政府高官と相次いで会談したことです。」という報告およびナレーションによる「一連の会談で議題となった北朝鮮問題について菅長官はこのように話していますが日本政府関係者は今回の目的として金正恩委員長を取り巻く北朝鮮の人間関係について日本の把握している情報が正しいのか確認したかったと話しています。その理由が現在の北朝鮮の状況が金委員長にもの言える人がいないのではないかとのみ方が日本政府内で強まっているためです。安倍総理が拉致問題の解決に向け、金委員長とトップ同志の会談で事態を打開する可能性を模索する中で行われた今回の外遊、日本が持つ北朝鮮とのパイプが金委員長につながる正しいルートなのか、アメリカ政府の高官からは顔を突き合わせて話せる環境の中で確認したい移行があったと見られます」という解説が取り上げられていた。

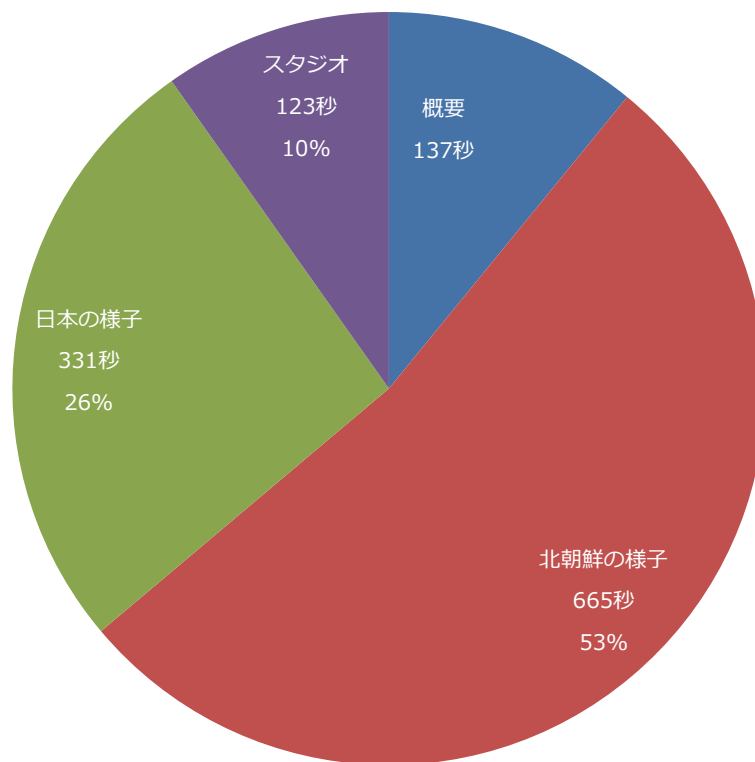
このトピックに当てられた時間は 266 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・アメリカとイラン：結論→特に問題なし

イランとの対立が深まる中でアメリカ国防総省が地対空ミサイル、パトリオットを中東地域に新たに配備すると発表したとことが伝えられた、このトピックに当てられた時間は 81 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】北朝鮮～相次ぐ発射の裏で：結論→特に問題なし

北朝鮮について特集されていた。この特集に当てられた時間は 1256 秒で、概要に触れた部分、北朝鮮の国内事情に焦点を当てた部分、日本の対応及び拉致被害者家族の声に焦点を当てた部分、スタジオでのやり取りに大別され、時間配分及び比率は以下の通りであった。



[VTR1]

朝鮮中央テレビ「金正恩同志は 5 月 9 日、朝鮮人民軍の火力打撃訓練を指導された」

ナレ「1 週間前に続き、おとといも軍事訓練に臨んだ金正恩党委員長。火力打撃訓練開始の命令を下したという。」

朝鮮中央テレビ「その瞬間 雷のような轟音をとどろかせて、真っ赤な火が設定目標に向かって、青空を力強くかき分け始めた」

ナレ「この飛翔体について、アメリカ国防総省は、複数の弾道ミサイルだったと、断定。日本政府は」

岩屋防衛相「このような弾道ミサイルの発射は、関連する安保理決議に明白に違反するものでして、誠に遺憾に思っております。」

ナレ「相次ぐ、発射の狙いは、経済制裁の影響は。そして拉致問題の行方は」

[VTR2]

ナレ「今月、4 日、そしておとといと、立て続けに軍事訓練を行った北朝鮮。軍事ジャーナリストの黒井文太郎氏は、北朝鮮メディアが公開した写真を、分析してもらった。」

黒井氏「22 連装なんですね。22 発一斉に一台に撃てるんですけども、一斉にあってある程度の面積を破壊するっていうような使い方をする兵器ですね。」

ナレ「90 年代に配備された 240 mm 多連装ロケット砲。砲弾はソウルまで届く。3 年前に公開された 300 mm 多連装ロケット砲。在韓米軍の基地があるピュンテク市やオサン市を射程に収める。特に注目されているのが、戦術誘導兵器と称されたこの兵器だ。4 日に初めて発射が公開され、おとといにも同型のものが発射。最大 420 キロキロ地点まで飛んだとされている。」

黒井氏「北朝鮮産のイスカンデルと言って良いと思います。」

ナレ「ロシアの短距離弾道ミサイルイスカンデル。今回の飛翔体はこれと酷似しているという。」

黒井氏「形も大きさも、もうほぼほぼコピーと言って良いですね。イスカンデルと同じ性能があるとすれば、まず飛距離、射程がですね500キロを超える可能性が非常に高い。500キロ超えるとですね、北朝鮮の南部から撃つと、ほぼほぼ韓国の全域が入ります。ここにこう飛び散っているものがあるんですけども、これあの、金属をもってまあ固定しているんですね。で、とばしてリリースして戻ってくるんですけども、これはもう世界中でもロシアのイスカンデルしか採用していない方式ですね。そこまでコピーしているんだということは、もう全部が全部コピーしているんだとおもいますね。」

ナレ「この、戦術誘導兵器は、去年2月の軍事パレードで登場していたが、実証実験を経た今、韓国にとっての脅威が増したと、黒井氏は指摘する。」

ナレ「2010年に起きた延坪島砲撃事件。」

記者「砲弾が直撃したんでしょう。屋根に大きな穴が開いています。」

ナレ「北朝鮮から、170発もの砲弾が撃ち込まれたが、半数以上は海に落ちたとされている。だが、もしイスカンデルのコピーがあれば、」

黒井氏「命中精度が高い。ミサイル自体にレーダーとかシーカー、そういったセンサーが付いているんですね。それで、いろいろ相手の状況、敵を確認しながら、その軌道を若干変えながら飛ぶことが可能ということです。」

ナレ「韓国メディアの取材を受けた文在寅大統領は、2度目の発射について、」

文在寅氏（字幕）「弾道ミサイルだった場合は、安保理決議違反と言えなくもない。北朝鮮の計画された行動のように見られる。対話の状況を壊さないような努力も同時に見せている。」

ナレ「対話の姿勢を維持する韓国。一方、アメリカは、」

トランプ大統領（字幕）「とても深刻に考えている。あれは短距離ミサイルだったが、誰も喜んでいない。関係は継続するが、どうなるか見てみよう。北朝鮮が交渉したがっていることは分かっているが、彼らにその準備ができていないとは思わない。」

ナレ「トランプ大統領も、対応は抑制的だ。北朝鮮は、こうした状況を利用して、安全保障上、できることを進めていると、黒井氏は指摘する。」

黒井氏「要は北朝鮮にとって何が一番得かという、交渉のテーブルだけはずっとつなぎとめるけれども、その間に自分たちの戦力も少しずつ強化していくということですね。北朝鮮としては、制裁を解除してほしいだろうけれども、非核化するぐらいだったら、制裁解除なんていらぬよっていう態度ですから。どちらか優先しているかっていったら、明白だと思います。」

ナレ「対話を続けつつ、軍事面で強化を進める北朝鮮。一方で、経済制裁も続いている影響は出ているのか。」

日下部「北朝鮮国内の新しい声は入って来ているようですね。どんな内容でしたか。」

アジアプレス 石丸次郎氏「考えていたよりだいぶ悪そうですね。経済状態は。」

ナレ「こう話すのは、アジアプレスの石丸次郎氏。複数の北朝鮮住民の協力者とともに取材を続けている。都市部にすむ女性から昨日、声が届いた。」

北部の都市部でビジネスをする女性（40台）（字幕）「コメは売っていますが、それを買うお金がないのです。商売でどうにかしのいでいますが、皆、手持ちの金で食いつないで生きています。工場や企業はまともに動いていません。国家計画も（達成）できない。稼働していても、配給はない。仕事もないのに出勤だけは強制される。」

ナレ「北朝鮮の外貨獲得の柱である石炭やと鉄鉱石の輸出は、経済制裁で完全にストップ。鉱山では、配給が滞り、出勤できない労働者が、続出している。鉄鉱石の産地、ハムギョンホク道、ムサン郡との住民のやり取りでは、」

ムサン郡に住む男性（SNS/吹替）「2月16日に5日分の食料をもらって、それからは何もない。無断欠勤はさらに増えて、3月には50人から、60人が出勤できなかった。鉦山の警察では、無断欠勤を処罰しますが、今はみんな栄養状態も良くなって、飢えているので、処罰も出来ないんです。」

ナレ「去年、1年間の中国と北朝鮮の貿易総額は、前の年に比べ、半減。賄賂による密輸も横行していたが、中国当局が、国境の統制を厳しくしたという。」

"北部の都市部でビジネスをする女性（40台）（字幕）「中国人も密輸をした人たちが、たくさん（中国当局に）捕まっています。」

アジアプレス（字幕）「中国側の取り締まりが厳しくて、密輸も出来ないということですか」

北部の都市部でビジネスをする女性（40台）（字幕）「できません。（ルートが）塞がったので、苦しいです。」

"日下部「中国はやはりいまだに、きちんと制裁を守っているんですか？」

石丸氏「うん。2月のトランプ大統領との会談の後ですね、3月に入ってから非常に厳格化してます。北京中央から厳しい指示が来て、それが通関業務の原則となってですね、一つ一つの荷物必ずチェックしなければいけない。書類上の品目と、それから量があっているのかどうかの検査もやるようになった。だから非常に通関に時間もかかるようになっているんですね。」

ナレ「さらに、厳しいのが、農村地帯だ。これは先月、WFPが北朝鮮を調査した際の映像。去年から今年にかけて、干ばつや洪水によって、ここ10年で、最悪の不作に見舞われ、およそ1000万人が、食料不足の危機に直面しているという。アジアプレスの取材協力者が農村で調査したところ、生産者である農民が飢えていることが分かった。去年、不作だったにもかかわらず、当局は軍などに収めるため、収穫した食料を無理に供出させたという。」

中部地域に住む女性（30代）（吹替）「餓死と断定するのは、難しいけど、栄養不足も餓死と同じことでしょう。私が農村に行ったとき、55歳の女性と、66歳の老人など、3人が死にました。みんなどん底の暮らしをしていた人たちだそうです。」

ナレ「こうした中、独力で経済を立て直す『自力更生』というスローガンが掲げられている。」

北部の都市部でビジネスをする女性（40台）（字幕）「苦しくなったら『自力更生しろ』と言われるが、本当にとんでもない。正直に言って、私たちは自力で生きているのに、さらに何をしろというのか、分かりません。農村がどうなろうと、経済がどうなろうと、心配する人なんていませんよ。皆自分が食うのさえも、難しいのです。南朝鮮とか、アメリカと会談した時は我々も、良い暮らしができると思っていたが、そうはならなかった。私たちは食べ物が必要なのに、トップは核が必要という。私たちにはどうしようもないですね。」

石丸氏「北の国民にとってはですね、まあ非常に失望感がある。しかも現状、制裁の打撃を受けているうえに、食糧生産が去年、非常に悪かったですから、どんどんどんどんこれから、日々生活が悪化している状況が悪くなっていくっていうのは、皆さんが実感として持っているわけですね。権威の失墜につながっていく可能性は十分にあるんじゃないかと思います。」

ナレ「今週、月曜日、トランプ大統領との電話会談の後、安倍総理は、こう述べた。」

安倍総理「わたくし自身が、金正恩党委員長と向き合わなければならない。条件を付けずに向き合わなければならないという考えであります。あらゆるチャンスを逃さない決意で、この問題の解決にあたっていく考えであります。」

ナレ「これまで、日朝首脳会談の前提条件として、『拉致問題の解決に資する会談』としなければならないと述べてきた安倍総理。今回、条件を付けずに金正恩党委員長と、会う考えを明らかにした。さらに」

ナレ「拉致問題担当大臣を兼務する菅官房長官が、アメリカを訪れる。ポンペオ国務長官や、ペンス副大統領と、

相次いで会談した。」

ナレ「日朝首脳会談を模索する安倍政権だが、北朝鮮はその後も、弾道ミサイルを発射した。この状況で拉致問題をはじめとする日朝関係に進展はあるのか。」

ナレ「1978年、北朝鮮に拉致された増本るみ子さんの弟、輝明さんに聞いた。」

膳場「拉致問題の進展が、前提条件としてたのが、まあ今回違う表現になってるんですけど、」

増元氏「前に進めるための言葉としては、いいと思うんですけどね、もし無条件で会うってんだったら、もっと早く無条件で会うということを意思表示してもらったほうが良かったかなと思います。」

膳場「拉致問題、解決という文言を外れてもそこには、あまりこう、不満とかはないですか？」

増元氏「不満はないです。安倍さんにとって、拉致問題というのは、政治課題、一番重い政治課題だというふうには常々おっしゃってますし、その点に関しては、私は、疑いを持っていません。会って、直接話をして、日本の決意を伝えるということは、重要だと思うんですよ。あとトランプさんから聞いたって、それはまあ間接的な表現でしか、ならないでしょうし、直接日本の総理が向こうの指導者に会って、意思を伝えるのが重要だと思っておりますので、それだけで成果とは私は思うんですけど。」

ナレ「神戸市に住む、拉致被害者家族を訪ねた。1983年に拉致された有本恵子さんの両親だ。」

膳場「こんにちは。TBSです。ごぶさたしています。おじゃまします。ちょっと調子よくないねー」

ナレ「この日、妻の嘉代子さんは横になっていた。ここ数年体調は思わしくない。」

膳場「しんどいですか？」

"嘉代子さん「ものすごくえらい（しんどい）です。」

膳場「ああーそうですか。おなかに水がたまられたって。」

嘉代子さん「だからまあ、ねー、あの子がかえって来るまで命が持つかなと思ってそればかり思います。」 "

ナレ「応接間で改めて話を聞いた、嘉代子さんは93歳。彰浩さんは90歳になる。2人は、トランプ大統領が金正恩党委員長との会談で、拉致問題を提起したことに期待を寄せている。」

"有本嘉代子さん「ねえもお、日本一国では、まず無理だなあという思いが、だいぶ前からありましたからね。」

有本明弘さん「トランプさんの脅しにもう、あれは、話し合いに乗ってきたやろうな。自分のところがつぶれる、潰されるということを知っているから。話し合いに乗ってきたんや。」 "

ナレ「拉致被害者の親世代で活動を続けているのは、有本さん夫婦と、横田めぐみさんの両親の二家族となった。嘉代子さんには、横田咲江さんから、10日で1度くらいのペースで電話があり、励まされているという。」

嘉代子さん「なんとか、一番最後のだい。その思いだけです。それをしてくださるのは、トランプさんの力と安倍総理の説得やろと思いますので。なんとかそれをしていただきたい。それだけをお願いしたいです。それだけですもう。そんなに長くは生きられません。もう自分分かってますからね。うん。だからなんとか最後に会えたらなあーと。横田さんも私もよっぽどうまくいかないとか会えないかなーと思うたりしています。」

VTRを受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返し広げられた。

膳場「えーお会いした有本明弘さんは90歳で、嘉代子さんは93歳。で、でお二人ともこのところ体調が思わしくないということで、拉致問題の解決、進展というのは、本当に待たないでなということ、再認識させられました。で、嘉代子さんをいつも気遣って、電話で励ましている横田咲江さんも、講演などの活動最近めっきり減ってしまってますよね。まですからね、拉致被害者の家族はすぎるような思いで、期待をしているわけなんですけども、ただ今の国際状況の中で、安倍政権が、あのーミサイル発射を繰り返す北朝鮮との首脳会談を前提条件なしで模索するというのは、現実的なのかどうかとも、思ってしまったね。」

金平「あの1年半ぶりのね、弾道ミサイルの発射ということで、国際社会では、国連決議違反だと、言われた条

件ちゃんと守れという条件がある中で、条件は付けないで会いたいと安倍首相が北朝鮮との首脳会談を目指すと言ってるのはですね、これ国際社会から見ると、ややですね、ちぐはぐなような印象が残ると思いましたが、あの、和田春樹東大名誉教授に先ほど伺ったのですが、本気で無条件でというならば、いわゆる安倍三原則の見直しまできちんと視野に入れなければ、成果は得られないのではとおっしゃっていました。」

日下部「私はあの、今回のミサイル発射、北朝鮮の人達はどう受け止めているのか。非常に気になるんですけども、まあ米朝をはじめとする一連の首脳会談。北のメディアはですね、大々的にしかも前向きに伝えてきたわけですね。当然人々は、制裁はこれで解除されて暮らし向きもよくなるんだろうという期待、膨らんでいたわけですね。そうした中のミサイル発射ですから、後戻り感というのは、我々以上思うんですけどね。特に北朝鮮の経済を実質的に支えているニューリッチの人たち。新興富裕層の失望。これはかなり大きい。こういった声を金委員長、無視はできないと、わたしは思うんですね。」

放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・オープニング

金平キャスターは「大統領がツイッターでなにか呟くと株価が乱高下したり閣僚が首になったり外国との緊張関係が生じるなど、世界が大きく変わってしまう、こんなことは本来、民主主義の国ではあってはならないはずですが、なぜ今のアメリカでは許されるのでしょうか、日本でもそうならないことを祈るばかりです。」とコメントしていた。

確かに大統領が「ツイッターでつぶやくと世界が大きく変わってしまう」ということはこれまでにはなかったことであったが、それはそもそも「ツイッター」というツールが登場したのが最近のことだからという話であり、「大統領が発信することで世界が大きく変わってしまう」ということそれ自体は今に始まったことではない。しかし、それはアメリカが大国であるがゆえのことであり、許す許さないという次元の問題ではなく、仮にトランプ大統領が核兵器を持たない小国の政権担当者であったならツイッターで何を呟こうが世界が大きく変わるということは中々起こらなかつただろう。確かに、反社会的勢力や反市場的勢力の言動で世界が大きく変わるということはリベラルデモクラシーの国においてはあってはならないことであるが、トランプ大統領は選挙というまさしく民主的な手続きによってアメリカの大統領に選ばれているわけだから、その大統領の言動で世界が大きく変わるということそれ自体は民主主義の国ではあってはならない、とまでは言えないだろう。

大国の大統領の言動で世界が大きく変わるということが民主主義の国ではあってはならない、というのであれば、それは民主主義の国は大国ではあってはならないということになるだろうし、そうではなく「ツイッター」によって世界が大きく変わることは民主主義の国ではあってはならない、ということであれば、「記者会見」だとか「議会演説」あるいは「街頭演説」といった従来の発信の場での発言で世界が大きく変わることはあって良いことだが、「ツイッター」という新しい発信の場での発言で世界が大きく変わるということは何故あってはならないのか、という点については説明しなくてはならないだろう。特に、テレビや新聞では大統領の発言は一部が切り取られたり編集が行われたりするが、その担い手たるメディアには民主的には何の正統性も持たない。民主的に選ばれた大統領の言動が民主的な信任に基づかないメディアというフィルターを介するのと、ツイッターによって民主的に選ばれた大統領の言葉が直接伝えられるというのではどちらがより民主的なのだろうか。

いずれにせよ、金平キャスターの発言は自分たちが属している既成メディアを通じて世界が変わるのは民主主義国で許されるが自分たちが属していない新しいメディアを通じて世界が変わるのは民主主義国では許されないとでも言いたげな、非常に一方的なコメントである。

また、「日本でもそうならないことを祈るばかりです。」ともコメントしていたが、日本が大国にならない限りは、そうしたことは杞憂に終わるだろうし、日本がより大国となれば、また情報技術が進みメディアを介することなく直接に世界に語りかけることが容易になればなるほど、そのツールがツイッターであるかどうかは別にして、日本国首相の言動が世界を大きく変えるような状況にはなるだろう。金平キャスターの祈りは実質的には日本が大国とならないことを祈るといふのと本質においては何ら変わることはないのだが、金平キャスターはそこまで考えが回っているのだろうか、やや疑問であった。

・大阪都構想

報道特集では米軍基地や原発などが争点となる地方の選挙については特集で深掘りをすることが多いが、そうした選挙と比べたら大阪の情勢については扱いが軽すぎやしないだろうか。大阪では地域政党である維新に対しては自民党から共産党まで含めた全国政党が共闘するという特異な構図になっているが、こうした大阪都構想については地方自治を巡る争点が米軍基地問題や原発に比べて重要性に劣るとは到底思えない。今回の番組だけで判断はできないが、基地問題や原発を巡る選挙をクローズアップする一方で大阪の選挙をこのように過度に軽く扱うような番組構成が続くようであれば、放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」や同四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」という点で問題となる可能性もあるだろう。

・【特集】北朝鮮～相次ぐ発射の裏で

米朝首脳会談や北朝鮮によるミサイル発射など現在の動きが活発化していることもあり、どうしても直近のことに焦点が当たりがち、近視眼的な特集になりがちなのは仕方のないことなのかもしれないが、せつかく特集として 20 分以上も枠をとっているのだから、そもそも拉致問題がいつ起こって、それが今に至るまでどのように扱われてきたのか、その間の拉致被害者家族の苦悩などにも焦点を当てるような特集があってもよいと思う。